

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 23 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて ㊦	62
○平成 23 年度大会講演会における「企画セッション」の募集	67
○平成 22 年度全国優秀技術発表会の開催について (再) ㊦	67
○「大地とともに一ある農用地技術集団の 55 年一」の刊行について (再)	68
○学会誌および論文集の英文名変更について (再)	68
○英文誌の Journal@rchive 公開のお知らせ (再)	68
○論文集の J-STAGE 公開と投稿時の振込金について (再)	68
○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	69
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	69
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い	70
○四季折々の美しい農村地域における農業施設・構造物で表紙を飾ろう!!	
「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 24 年秋季～冬季の表紙写真の募集	70
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	71
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のごお願いと国際ジャーナル	
「Paddy and Water Environment」について	72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと	
2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	72
○平成 22 年度農業水利研究部会研究集会の開催について ㊦	73
○水土文化研究部会第 8 回研究会の開催について (第 1 報) ㊦	73
○第 48 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報) ㊦	73
○平成 22 年度東京フォーラムの開催について ㊦	74
学会記事	75

第 79 巻第 2 号予定

展望：地域を考慮したため池の減災：内田和子

小特集：ため池における危機管理

- ①ため池の危機管理のための「ため池 DB ハザードマップ作成システム」について：谷 茂ほか
- ②ため池堆積物調査における電磁波レーダ法の適用：松本延城ほか
- ③ HPRCC を用いたため池堤体の越流対策：竹内国雄ほか
- ④放射温度計を用いたため池の漏水探査：西山壯一
- ⑤兵庫県におけるため池の防災・減災対策の展開：長谷坂兼司

技術リポート

- 北海道支部：湿原上流における事業実施中の沈砂池による土砂流出対策：竹部健司ほか
 東北支部：河川堤防内における地盤改良について：磯目 剛ほか
 関東支部：ため池改修における既存施設の利用について：峯島昌忠
 京都支部：「野々江地区」で取り組む付加価値の高い農業への支援：石垣広男ほか
 中四国支部：広域営農団地農道整備事業東城 (2 期) 地区の完成に向けて：金崎博之ほか
 九州支部：中山間地域の用水路改修事例：上野竜二

小講座：井上敬資

私のビジョン：さぬきのため池と農業土木：喜多一夫

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名		テーマ	開催場所	掲載号
平成23年1月19日	北海道支部	第35回研修会・講習会	ⓑ	研修会：改革を迫られる北海道農業	札幌市	78巻12号
平成23年2月19日	農業水利研究部会	平成22年度研究集会	ⓑ	環境用水取得の効果と課題	東京都	79巻1号
平成23年3月1日	水土文化研究部会	第8回研究会	ⓑ	水利遺産の価値と今後の活かし方	東京都	79巻1号
平成23年3月4日	材料施工研究部会	第48回シンポジウム	ⓑ	ストックマネジメント導入における成果と今後の展開(仮題)	東京都	78巻12号 79巻1号
平成23年9月6~9日	大会運営委員会	平成23年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ		福岡市	78巻12号 79巻1号

平成23年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

研究委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成23年度農業農村工学会大会講演会は、九州大学箱崎キャンパスにおいて平成23年9月6日(火)、7日(水)、8日(木)の3日間、開催を予定しています。また、9月9日(金)には現地研修会を行う予定です。この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込み下さい。

今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌3月号でお知らせします。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限り、講演申込み受付の際、会員番号を確認します。平成23年4月入会の場合も可とします。非会員の発表は認めません。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただし、プログラム編成上、希望部門が変更される場合があります。
- (4) **講演方法**：個人発表とし、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題とします。ただし、企画セッションについては、研究発表セッションとの複数発表を認めます(1人が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません)。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」か「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選んで下さい。①「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式、②「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態の

変更をお願いする場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更諾否」で「否」を選んで下さい。プログラムならびに発表形態は、学会ホームページで5月末までにお知らせします。また、発表会場の設備、ポスターの大きさ等については、ポスター発表をする代表発表者へ、直接メールにてお知らせします。

- (6) **講演時間**：①口頭発表は1課題15分(発表12分、質疑3分)です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを確保します。
- (7) **講演要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿を講演要旨集に集録します。
- (8) **大会概要集**：投稿票のうち、講演題目、発表者所属・氏名、講演概要(200字以内)を、大会概要集に集録します。講演概要は文字数を厳守して下さい。200字を超えるものについては概要集への集録の際に文章を割愛します。
- (9) **座長総括**：各セッションの内容等を座長総括として担当座長にまとめていただきます。会員相互の理解を深め、また研究分野間の連携を進めるために行うものです。全体討論、研究動向の総括や各発表の関連と位置づけなどを、セッションの最後の10分間で報告してもらいます。

2. 投稿要領

- (1) 所定の投稿票と講演要旨原稿一式の提出、および申込料2,100円(消費税込み)の納入をもって申込みとみなします。なお、送金後に発表を取消されても、申込料の返金はできません。郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。
- (2) 講演要旨原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページとします。市販のA4判上質紙に印字した原稿で投稿

して下さい。後述の「4. 講演要旨原稿の書き方」に従い、執筆して下さい。

- (3) CD-ROM 版講演要旨集の作成にご協力下さい。CD-ROM 作成を容易にするため、講演要旨原稿のファイルを PDF 形式に変換して提出して下さい。
- (4) プログラム編成作業の都合上、投稿票と同じ内容の Excel ファイルを、必ず提出して下さい。
- (5) 講演要旨原稿 PDF ファイルならびに投稿票 Excel ファイルのファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓 名)として下さい(例:「taikai tarou.pdf」, 「taikai tarou.xls」)。これらファイルを電子メールで taikai@jsidre.or.jp へお送り下さい。メール発信の際、表題(Subject)も代表発表者名として下さい。ファイルを受領・確認後、事務局より受領メールを返信します。
- (6) 投稿の受付は、次の書類の郵送および電子メールでのデータ送信をもって受領といたします。なお、郵送は事故防止のため必ず簡易書留郵便にて、表に「大会講演要旨原稿在中」と朱書きしてご送付下さい。原稿は折ったり、しわにならないよう十分注意して、A4サイズの封筒(角型2号)で送付して下さい。

●郵送するもの

- ① 講演要旨原稿 1部
- ② 原稿コピー 3部
- ③ 投稿票 1部 (印刷用ページ)
- ④ 講演申込料の振替の写し
- ⑤ 入会申込書 (非会員のみ)

●電子メールでデータ送信をするもの

- ① 講演要旨原稿 PDF ファイル
- ② 投稿票 Excel データファイル

(7) 締切：平成 23 年 3 月 31 日 (木) 消印有効
(遅延は不可)

(8) 申込み・問合せ先
農業農村工学会事務局大会担当 (宇津木) あて

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : taikai@jsidre.or.jp

郵便振替 : 00160-8-47993

加入者名 : (社) 農業農村工学会
銀行から郵便振替口座へのお振込の場合は次の口座番号となります。
金融機関コード : 9900
銀行名 : ゆうちょ銀行
店番 : 019 当座預金 0047993

3. 投稿票

下記注意事項を参照の上、必要事項を記入して原稿に添付して提出して下さい。投稿票の内容の一部は、大会概要集に集録します。

- (1) 必ず会員番号を記入して下さい(4月以降入会者は不要)。
- (2) 講演の概要は、必ず 200 字以内の日本語で記入して下さい(英文不可)。
- (3) プログラム編成に使用しますので、氏名、所属機関、講演題目(副題も含めて)は、必ず講演要旨原稿と一致させて下さい。
- (4) 講演希望部門(第1希望・第2希望)とキーワードを必ず記入して下さい。キーワードは、講演内容にふさわしいものを文字で記入して下さい。キーワードの例は、本誌 65 ページに掲載されていますが、必ずしもこの中から選択する必要はありません。
- (5) 投稿票および投稿票 Excel ファイルは、下記の様式で作成して下さい。投稿票の様式は、本誌 66 ページにあります。また、Excel ファイルの様式は、<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>よりダウンロードできます。
(下表の 2 段目、3 段目は、1 段目の右側にそれぞれ続けて作成して下さい)

代表発表者 ○印	会員番号	氏名	フリガナ	ローマ字(姓 名)	所属(和)	所属(英)	代表者 連絡先〒	代表者連絡先住所
1								
2								
3								
8								

下の段を右につづける

代表者連絡先 TEL	代表者連絡先 FAX	代表者連絡先 E-mail	講演題目	講演題目(英文)	第1講演 希望部門	第2講演 希望部門

下の段を右につづける

キーワード1	キーワード2	キーワード3	写真枚数	図枚数	表枚数	参考文献数	発表形態	変更諾否	講演の概要 (200字以内)

4. 講演要旨原稿の書き方

(1) 原稿用紙は、A4判（横 210 mm，縦 297 mm）の白紙とし、印刷の都合上、マージンは次のようにして下さい。

上：25 mm，下：27 mm，左：23 mm，右：25 mm

(2) 原稿は、オフセット印刷でモノクロに縮写され、B5判の大きさになります。

(3) 書式

- ① 文字：文字は、10.5 ポイント以上として下さい。標準フォントとして、MS 明朝，MS ゴシック，平成明朝，平成ゴシックをお使い下さい。特殊なフォントは極力使わないで下さい。また、機種依存文字 (①，②，…Ⅰ，Ⅱ，…等) も使わないで下さい。

上下左右のマージン内いっばいに、1 行 40 字，1 ページ 40 行，横書きを標準として印字して下さい。ワープロソフトによりこの組み合わせができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにして下さい。

- ② 題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1 ページ目第 1 行と第 2 行に中央に寄せ、12～14 ポイントで和英併記して下さい。

講演者氏名は、第 4 行と第 5 行に中央に寄せ、10

～12 ポイントで和英併記して下さい。連名の場合には代表発表者の前に○印をつけて下さい。

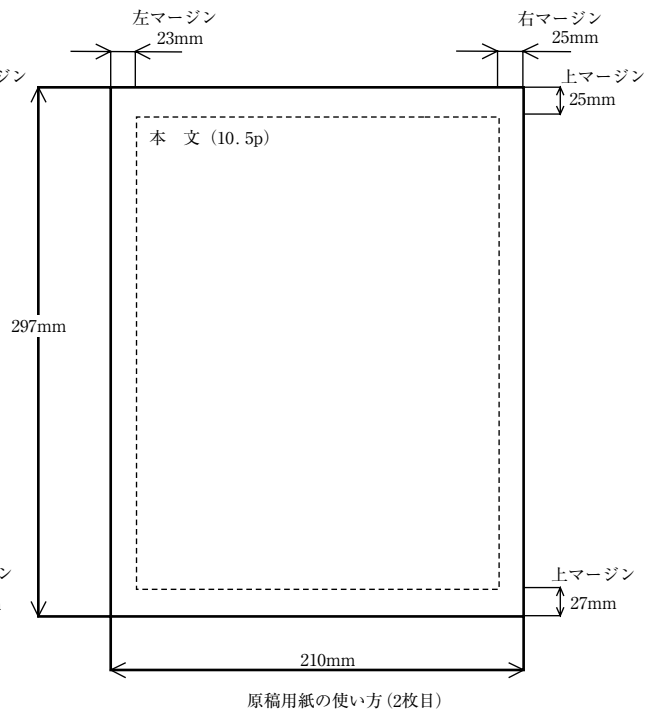
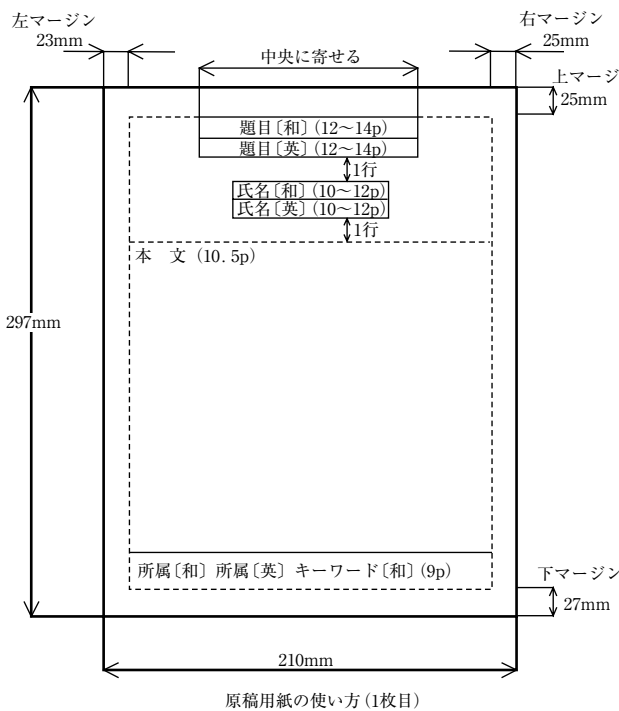
所属は、1 ページ目本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9 ポイントで 1 行に和英併記して下さい。所属に続けてキーワード〔和〕を書いて下さい。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにして下さい。

本文は、第 7 行から書き始めて下さい。2 ページ目は第 1 行から書いて下さい。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿用紙内に書込み（あるいは貼込み）、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにして下さい。なお、図表の表題にも英語を併記して下さい。

(4) その他：2 枚の原稿（コピー含む）の裏面右上に、鉛筆で、代表発表者名およびページを記入して下さい。

- 5. 著作権 講演要旨集と大会概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権，コピーライト）は、(社) 農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。



キーワード表			
1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水取支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

受付月日	No.	申込金受領	会場番号	講演番号

平成23年度大会講演会投稿票

1. 講演者の氏名・所属機関 (共同研究の場合は、代表発表者に○印をつけて下さい。氏名の順序は、原稿と一致させて下さい。)

	代表発表者に○印	会員番号	氏名	フリガナ	所属 (和)
				ローマ字 (姓_名)	所属 (英)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

代表者の連絡先 (住所) 〒

(TEL)

(FAX)

E-mail

Excel ファイルの送信日:

2. 講演題目 (題目および副題は、必ず本文と同じものを記入して下さい。)

(和文)

(英文)

3. 講演希望部門 (第1希望部門と、第2希望部門を数字で記入して下さい。)

第1希望	第2希望
------	------

1. 水理 2. 水文・水質・気象 3. 土壌物理 4. 土質力学 5. 応用力学 6. 材料・施工 7. 灌漑排水
8. 農地造成・整備・保全 9. 農村計画 10. 環境保全 11. 生態環境 12. 農業土木教育・農業情報

4. キーワード (上記の講演希望部門に関連したキーワードを1個以上、記入して下さい。)

1	2	3
---	---	---

5. 図表などの数

写真枚数	図枚数	表枚数	参考文献数

6. 発表形態

	1. 口頭発表 2. ポスター発表
--	-------------------

7. プログラム編成上必要な場合、発表形態の変更に応じて頂けますか?

Y. 諾 N. 否

8. 講演の概要 (200字以内) (必ず日本語で記入して下さい。)

平成 23 年度大会講演会における「企画セッション」の募集

研究委員会

平成 23 年度大会(9 月 6 日～8 日, 九州大学箱崎キャンパス)における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は 2 月 4 日(金)です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局 (taikai@jsidre.or.jp) まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ:「オープン・タイプ」または「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要(200 字以内)

なお, 類似した企画が提案された場合, 調整をお願いすることがあります。企画セッション数の上限は 18 程度とします。企画の採否については, 研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則 100 分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認めません。各セッションとも, 最低 2 件以上の発表があることが前提です。なお, セッションの講演者は会員であることを要しませんが, 大会参加費の支払いは必要です。

企画セッションの利用としては, 科研費研究グループや各種プロジェクトの成果発表, 特定テーマに関する最新情報の紹介, 等を想定していますが, 会員の皆様の自由な発想で企画セッ

ションを活用して下さい。

企画セッションでの発表者は, 従来の研究発表セッションとの複数発表を認めます。ただし, 企画セッションでの発表は, プログラム編成の都合上, 1 人 1 件に限ります。各オーガナイザーは発表者選定にあたり, この点に十分留意して下さい。

なお, 企画セッションとはいえ, 研究発表と同等ですので, 講演要旨集には講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また, 各セッションは 100 分を予定していますが, プログラムのブロック割りのため, セッション時間が 100 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画の申込料は, 講演題数にかかわらず 6 題分(12,600 円)となります。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2 月 4 日(金)
2. 研究委員会で調整の後, 応募テーマの採否の連絡
2 月 14 日(月)頃
3. 企画テーマの学会ホームページ上での公開と「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表申込みは各オーガナイザーに直接)
2 月 14 日(月)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3 月 18 日(金)
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切
3 月 31 日(木)

申込み・問合せ先

(社) 農業農村工学会事務局大会企画セッション担当(宇津木)
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: taikai@jsidre.or.jp

平成 22 年度全国優秀技術発表会の開催について(再)

行事企画委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 22 年度全国優秀技術発表会を下記のとおり企画しました。本発表会は, 平成 19 年度まで中央講習会として実施してきたものを名称変更しました。

近年の各支部大会報告の中から, 特に評価が高く, 全国的なモデルになり得る地域の新たな取組みについて, 各支部より発表いただくことを念頭に下記のとおり企画いたしましたので, ふるってご参加下さい。

1. 主催 農業農村工学会行事企画委員会
2. 期日 平成 23 年 1 月 24 日(月)

3. 場所 東京大学弥生講堂
4. プログラム(予定) 10:00~17:00
開会挨拶 行事企画委員長
講演 各支部選考の優秀技術に関する報告(各 30 分程度)
意見交換
5. 参加費 一般 4,000 円
会員 2,000 円
学生 1,000 円
6. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (社) 農業農村工学会 行事企画委員会

☎.03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
 E-mail: utsugi@jsidre.or.jp 担当: 菊辻, 宇津木

「大地とともに—ある農用地技術集団の55年—」の刊行について (再)

森林総合研究所森林農地整備センターの農用地部門は、前身である農地開発機械公団の設立以来、半世紀以上にわたり農業農村基盤の整備において常に先駆的役割を果たしてきました。しかし、同センターの農用地部門は、現在実施中の事業の完了をもってその役割を終えようとしています。この「大地とともに—ある農用地技術集団の55年—」は、同センター内で記念誌として出版の準備を進めていたところ、農業農村工学の歴史として承継すべき出版物と考え、農業農村工学会が同センターとともに発刊することになり、下記のとおり10月末に刊行しました。

記

書名 大地とともに—ある農用地技術集団の55年—

体裁 B5判 9ポイント組 本文約430ページ

価格 定価7,000円(税込・送料学会負担)

会員特価4,500円(税込・送料学会負担)

※在庫がなくなり次第販売は終了となります。購入希望の方は、申込方法について連絡先にお問い合わせ下さい。

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(社) 農業農村工学会事務局 図書係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学会誌および論文集の英文名変更について (再)

学会誌編集委員会・論文集編集委員会

学会誌編集委員会と論文集編集委員会では、それぞれの英文名について検討を行い、変更案について学会誌第78巻第6号において告知し、会員各員のご意見を伺ってまいりました。

その結果、第216回理事会(平成22年9月10日)において下記のように決定いたしました。

第79巻第1号(学会誌は平成23年1月, 論文集は平成23年2月)より新英文名に変更となります。

新英文名

学会誌: Water, Land and Environmental Engineering

論文集: Irrigation, Drainage and Rural Engineering Journal

英文誌の Journal@rchive 公開のお知らせ (再)

Journal@rchive (ジャーナルアーカイブ) は、(独) 科学技術振興機構 (JST) で運用している科学技術情報発信・流通システム (J-STAGE) のアーカイブサイトで、JST が実施している電子アーカイブ事業において電子化した学術雑誌を公開しています。

本学会の学会誌 (第1巻第1号~第76巻第12号), 論文集 (第1号~第258号), 英文誌 (Journal of Irrigation Engineering and Rural Planning, Rural and Environment Engineering (第1号~第44号)) はこの事業において対象誌として採択されており、順次公開の準備を進めております。

このたび、英文誌 (第1号~第44号) が公開されましたのでお知らせいたします。有効活用いただきますようお願い申し上げます。

下記 URL よりご覧下さい。

Journal of Irrigation Engineering and Rural Planning (1~30号):
http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jierp1982

Rural and Environment Engineering (31~44号):
http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jierp1996

論文集の J-STAGE 公開と投稿時の振込金について (再)

論文集編集委員会

論文集の J-STAGE への登載について、かねてより準備を進めておりましたが、このほど準備が整い第259号から第263号が公開されています。第264号(平成22年2月発行)以降は発行の1年後の公開となります。有効活用いただきますよ

うお願い申し上げます。

下記 URL よりご覧下さい。

【J-STAGE トップページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

【学会 日本語ページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsidre/-char/ja>

【学会 英語ページ】

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsidre>

論文集のJ-STAGEへの登載に伴い、論文集投稿時の振込金が変更されています。これまで投稿料16,000円を投稿時にお振り込みいただいておりましたが、J-STAGEへの登載料4,000円（J-STAGEへの登載料は5,000円ですが、1,000円は従来の投稿料から捻出することとし、4,000円を新たに負担いただきます。）についてもあらかじめ徴収することとし、平成22

年4月1日受付分より合計20,000円をお振り込みいただいています。

その理由としては、論文集の発行と同時にJ-STAGEへ登載するためにJSTに支払う必要があるからです。

ただし、審査の結果、投稿論文等が掲載不適となった場合は、登載料4,000円は返金いたします。

なお、論文集259号以降に掲載された論文等についての登載料は遡って著者に請求させていただきますので、ご了承ください。また、ご承知のとおり、掲載料を軽減していただくよう、ご協力をお願い申し上げます。

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

学会誌を出典とした通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間24CPDポイントが取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

なお、学会誌平成22年2月号に掲載された通信教育問題から配点を改正（正解率70%以上の場合1.0CPDポイントから1.5CPDポイントへ、正解率100%の場合1.5CPDポイントから2.0CPDポイントへ）いたしました。詳細については、第53回通信教育問題（学会誌平成22年2月号65ページ）をご参照下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の正・学生会員で、かつCPD会員の方は、農業農村工学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）にある参加申込書に必要事項を記入してメール（E-mail:kaito@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、技術者継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>、<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限 参加は、いつからでも可能です。

3. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、CPD運営委員会通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成します。回答はメール（E-mail:kaito@cpd.jsidre.or.jp）で機構に送信していただけます。

採点の結果、7割以上正解で1.5CPDポイント、満点で2.0CPDポイントが取得でき、CPD会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただけます。

4. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

5. 通信教育受講者の特典

採点結果は自動入力されますので、毎年4月中に取得した点数を本人にお知らせし、5月上旬から希望により有料で「CPD取得証明書」を発行します。

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、こ

れに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成21年度までに54件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。
銀行：みずほ銀行新橋支店
普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金
郵便振替：00140-2-54031
加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

四季折々の美しい農村地域における農業施設・構造物で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 24 年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 24 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 80 巻（平成 24 年 1～12 月号）のうち、特に秋季～冬季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成 23 年 3 月 31 日（秋季～冬季の写真）

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 80 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 24 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれ

ること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 79 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79 巻 2 号 ため池における危機管理 (仮)	公募終了
3 号 農村における生物多様性の保全 (仮)	公募なし
4 号 地域に貢献する「水土」の改善 (仮)	公募終了
5 号 土構造物および土中構造物数値解析とその適用 (仮)	公募終了
6 号 九州の地域特性に合わせた農業農村整備	公募なし
7 号 縮小する社会における農業農村整備のかたち (仮)	平成 23 年 1 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

79 巻 7 号テーマ「縮小する社会における農業農村整備のかたち」(仮)

わが国は人口減少の時代を迎え、経済成長も停滞が予想されている。さらに、現在食料自給率も上昇せず、コメ消費量も米価も低下し続けている。地方の過疎化や人口流出、高齢化も依然進行中であり、財政状況の悪化から公共事業費などの形で地方への財政支出は減少している。貿易黒字の確保の観点からは、貿易自由化への動きが今後更に強められることも予測される。このような状況下で地域の農村社会の好適な状態の維持は今後ますます困難になることが予測される。

しかしながら、新しい食料・農業・農村基本計画では国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指すとうたっている。またこれら政策は国家戦略として位置づけられている。このような時代背景の中、近い将来の実現可能な農業・農村の社会のイメージを描きながら、効果的に農業農村整備事業が実施されなくてはならない。また地域社会の振興につながるような整備であっても、今後の社会構造の変化を踏まえたコスト評価などが必要になると思われる。

以上のことから、これからのわが国の社会構造の変化を考慮して、農業農村整備がどうあるべきかについての意見、近い将来の農村集落のイメージや整備目標の考え方、社会構造の変化を意識した農業農村整備事例、事業に関わる土地改良区や地

域住民の意向や意識のあり方、整備コストの抑制方法や圃場の維持管理コストの削減方法などについての報文を広く募集します。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2010年12月末にVol.8, No.4が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々を国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2010年12月末にVol.8, No.4が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) のIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指してきました。

また、世界13カ国からEditor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

このような努力が実り、2009年12月、本ジャーナルがトム

ソン・ロイター社のSCIEに収録され、インパクトファクターを獲得したというビッグニュースが飛び込んできました。詳細についてはEditor-in-Chiefによる海外ニュースが本誌78巻1号88ページに掲載されていますのでご参照下さい。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は、台湾です。また、2010年10月1日付で、これまで編集長を勤めていただいた中野芳輔先生から、溝口 勝先生に編集長の交代がありましたのでご報告します。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1, Sec.4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467 FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技

術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

- **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)
Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- **Editors** 13 カ国から 23 名
- **Editing Board** 35 名
- **Managing Editors**
Chief Managing Editor : Prof. Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOBI

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社 : Springer-Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

平成 22 年度農業水利研究部会研究集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 22 年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。なお、詳細は学会のホームページ内の農業水利研究部会にアクセスしてご確認下さい。

1. **テーマ** 環境用水取得の効果と課題
2. **日時** 平成 23 年 2 月 19 日 (土) 13 時~17 時
3. **場所** 航空会館 603 会議室
東京都港区新橋 1-18-1 ☎03-3501-1272
4. **参加費** 無料 (部会会員以外の方の参加も可能です。)
5. **問合せ先**
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科地域資源利用学研究室 (中村好男)

☎03-5477-2337 FAX 03-5477-2620

E-mail : nyoshi@nodai.ac.jp

6. 会場への交通

- ・JR 新橋駅日比谷出口 (機関車のある方) 徒歩 5 分程度
- ・地下鉄新橋駅⑦出口 東京メトロ銀座線/都営浅草線 徒歩 5 分程度
- ・地下鉄内幸町駅 A2 出口 都営三田線 徒歩 1 分程度

水土文化研究部会第 8 回研究会の開催について (第 1 報)

技術者継続機構認定教育プログラム申請中



(社) 農業農村工学会のビジョン『新たな〈水土の知〉の礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。

そこで複合系としての水利遺産への認識を深めるために、「水利遺産の価値と今後への活かし方」と題して、第 8 回水土文化研究会を開催する。

1. **日時** 平成 23 年 3 月 1 日 (火) 13 時~16 時
2. **場所** 農林水産共済組合 南青山会館「3, 4 号室」
〒107-0062 東京都港区南青山 5-7-10
☎03-3406-1365

3. プログラム (表題は変更されることがあります)

- 講演
「近世以前の農業・土木遺産の全国調査にみる水利遺産の現状と価値判断」 岡山大学教授 馬場俊介
「古代水路「裂田の溝 (うなで)」と近世「石井樋」の水利施設としての類似性」 九州大学教授 島谷幸宏
「質疑応答」

4. 参加料 無料

* (社) 土地改良建設協会研修会との連携行事となっています。

第 48 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. **主催** 農業農村工学会材料施工研究部会
2. **テーマ** 「ストックマネジメント導入における成果と今後の展開」(仮題)
3. **講師** 農林水産省・研究機関・大学・自治体・民間の研究

究者および技術者（予定）

（株）三祐コンサルタンツ総合技術アセットマネジメント部

4. 期日 平成23年3月4日（金）10:00~16:00

第3課参事 阿部幸継

5. 会場 星陵会館

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-16-2

<http://www.seiryokai.org/kaikan.html>

パネルディスカッション 15:15~16:00

閉会式

（※講師およびテーマに変更・追加がある場合があります）

6. プログラム（案）

開会式 10:00~10:10

材料施工研究部会研究奨励賞授与式 10:10~10:40

講演発表 10:50~15:00

<基調講演>10:50~11:50

「コンクリートの耐酸性・耐久性研究とストックマネジメントとの関わり」

鳥取大学農学部・生物資源環境学科教授 服部九二雄

（昼食）

<一般講演>13:00~15:00

- (1) 農業水利施設のストックマネジメントにおける行政の新たな取組（仮称）

農村振興局整備部設計課施工企画調整室
課長補佐 森井秀之

- (2) スtockマネジメントを支える情報技術—農業水利ストック情報データベースシステム—（仮称）

関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所
技術調整官 池山和美

- (3) 農業水利施設の補修・補強の設計・施工（仮称）

7. 参加費 4,000円

当日、受付にて徴収させていただきます。

8. 申込み

以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。

①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④TEL, FAX, E-mail アドレス ⑤弁当（代金¥1,000）予約注文希望の有・無

9. 申込先 〒305-8609 つくば市観音台 2-1-6

農村工学研究所水利施設機能研究室気付

材料施工研究部会事務局

申込受付担当：中嶋 勇，森 充広

☎029-838-7573 FAX 029-838-7609

E-mail: kinou@naro.affrc.go.jp

10. 申込締切 平成23年2月18日（金）

11. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願いいたします。

12. 問合せ先 申込先と同じです。

13. その他 最終開催案内は、学会誌次号に掲載予定です。

平成22年度東京フォーラムの開催について

主催：全国農村振興技術連盟・（社）農業農村工学会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. テーマ

新基本計画以降の農政の動きと平成23年度予算の概要
～農業の競争力強化に対応した農業農村整備の方向～

2. 開催日 平成23年2月24日（木）9:50~17:00

受付は9:15から行います。

3. 場所 東京都千代田区北の丸公園 2-1 科学技術館 B2F

サイエンスホール ☎03-3212-8485

4. プログラム

（講師およびテーマに変更がある場合があります。）

開会挨拶 9:50~ 全国農村振興技術連盟委員長 太田信介
（社）農業農村工学会会長 河地利彦

梶木賞・広報大賞の表彰

1. 講演 10:30~11:45

○農産物を取り巻く貿易交渉の潮流

（独）農畜産業振興機構理事長 木下寛之

2. 講演 12:45~14:15

○最近の自由貿易交渉の動きと今後の農業政策

東京大学大学院農学生命科学研究科長・農学部長
生源寺眞一

3. 講演 14:25~15:55

○農地整備技術の効果とコスト縮減

農村工学研究所農村総合研究部長 高橋順二
同主任研究員 北川 巖

○事例紹介：宮城県営圃場整備「枝野地区」の取組

角田隅東土地改良区総務課長 斎藤啓二

4. 講演 16:00~17:00

○平成23年度農業農村整備関係予算と農業農村整備の取組

農村振興局整備部設計課技術調査官 印藤久喜

5. 参加費 8,000円（参加費は当日会場にて申し受けます。）

6. 申込み締切 平成23年2月4日（金）

7. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

全国農村振興技術連盟

☎03-3434-5407 FAX 03-3578-7176

申込方法等の詳細はHP (<http://www.n-renmei.jp/>) をご覧下さい。本フォーラムは、技術者継続教育機構会員のCPD5単位（申請中）にカウントされます。また、農業土木技術管理士の資格更新に必要な研修に代わる研修になっています。